

Easy fixation effects the prevention of Peterson's hernia and Roux stasis syndrome

メタデータ	言語: English 出版者: 公開日: 2022-10-31 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: ☒, 建忠 メールアドレス: 所属:
URL	https://jair.repo.nii.ac.jp/records/2003058

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 乙第 2525 号

Easy fixation effects the prevention of Peterson, s Hernia and Roux stasis syndrome

ピーターセンヘルニア及び Roux 停滞症候群予防のための簡単な固定の効果について

呉 建忠 (ご けんちゅう)

博士 (医学)

論文内容の要旨

本邦において胃癌における腹腔鏡手術は、今や主流となってきている。腹腔鏡下幽門側胃切除 (LDG) の再建方法は、B-I、B-II、R-Y の 3 通りあるが、B-I で再建できない場合に残りの 2 つの選択となる。B-II は、残胃癌や盲端症候群などの合併症からあまり推奨されず、現在 R-Y 吻合が一般的となっている。LDG 後 RY 再建術における合併症、ピーターセンヘルニアや Roux 停滞症候群は、様々な手術手技の工夫からその数は減っているものの、未だに複雑であり、時間も要するものが多い。特に結腸前吻合によるピーターセンヘルニアは、緊急手術を要することから、何らかの対策が必要である。今回我々は、2 つの合併症を減らす目的で、簡単で効果的な方法を考案した。(手術手技) 十二指腸断端と Roux 脚(挙上した小腸)とを覆いかぶせるように固定し、さらにその Roux 脚を Treitz 靭帯の右に固定させ、ねじれを防止する。この方法について、2015 年 7 月～2017 年 3 月までに当科で LDG (R-Y 再建) 手術を施行された 31 例をレトロスペクティブに解析した。この手法の平均時間 10 分。3 年経過観察を行い、31 例中が合併症は見られなかった。短期成績において、10 分間の追加手技により、合併症の予防効果を認めた。今後もこの手法を用い長期成績についての検討も必要である。